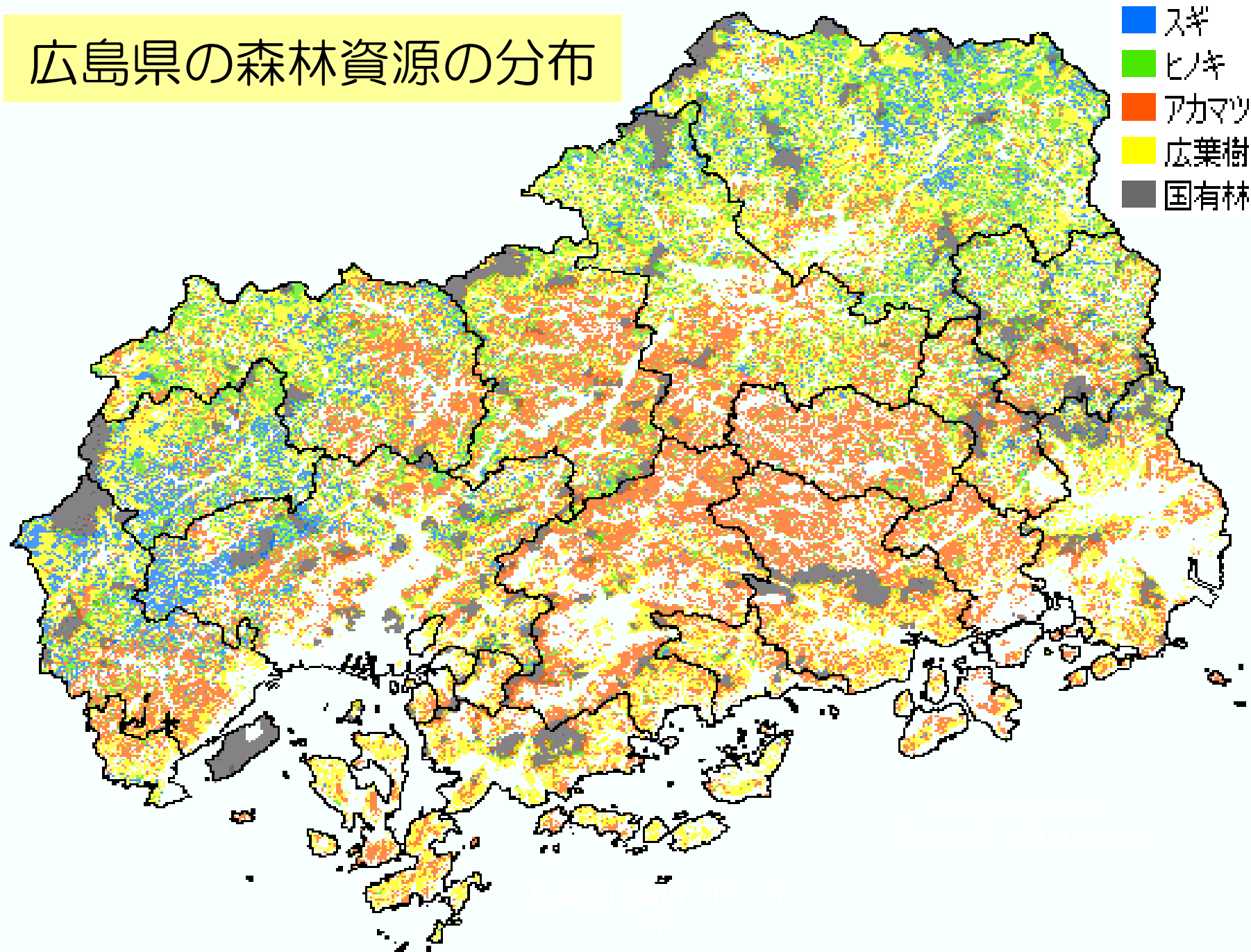


広島県における 特定鳥獣保護管理の 取組みと課題

広島県環境県民局自然環境課
課長 菅原 基晴

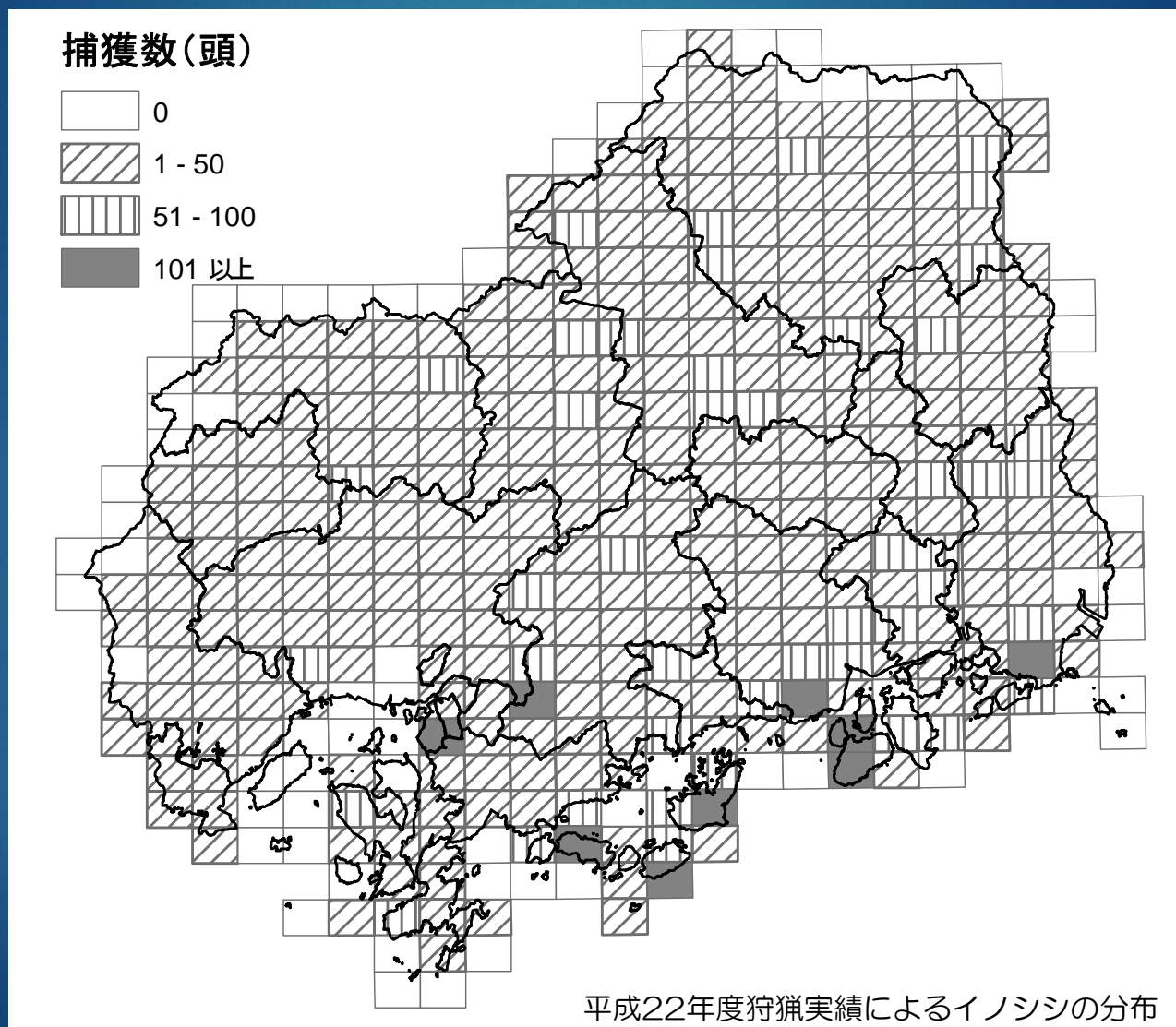
広島県の森林資源の分布



特定鳥獣保護管理計画の策定種

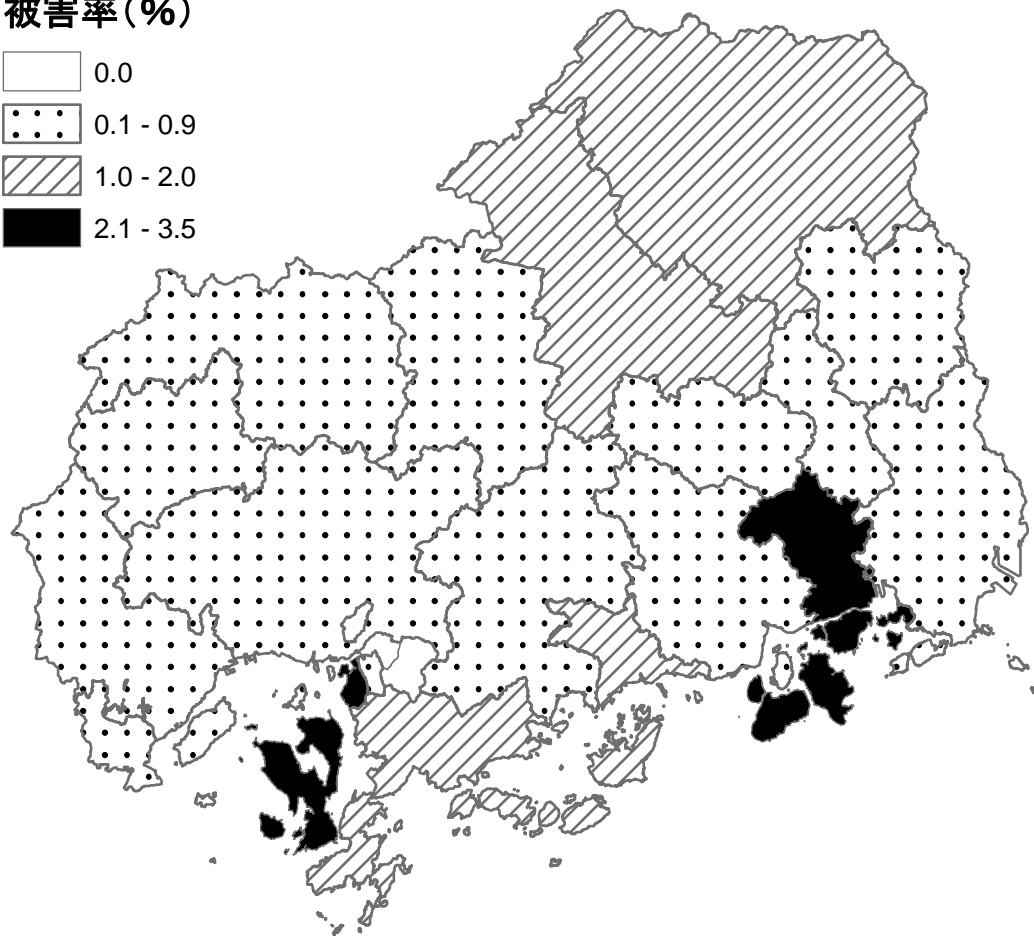
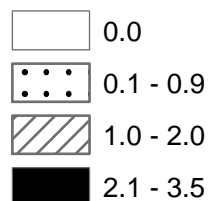
- ▶ イノシシ (H15~)
- ▶ ニホンジカ (H15~)
- ▶ ツキノワグマ (H15~)

イノシシの分布範囲

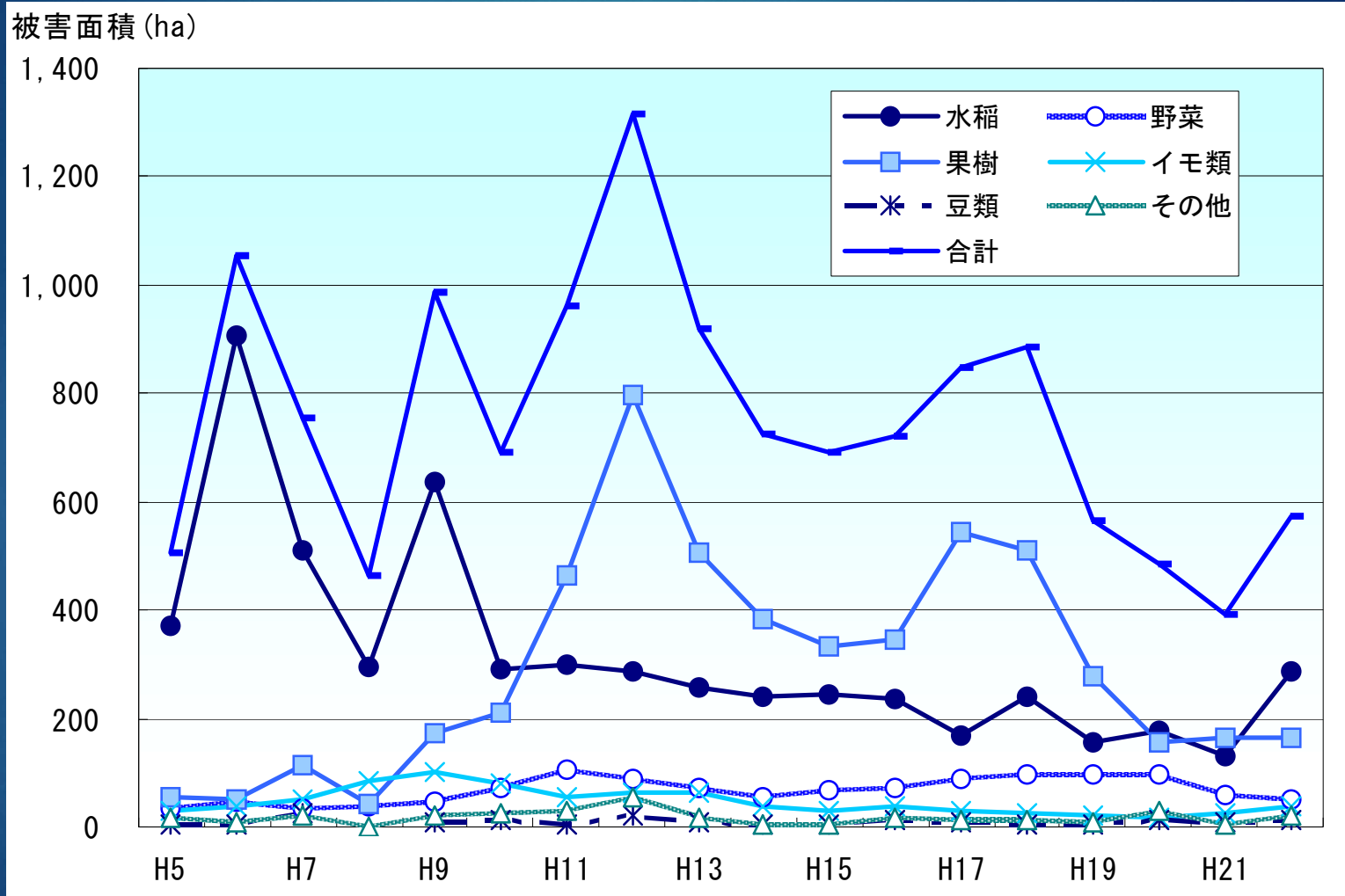


イノシシによる市町村別の耕地面積 当たりの被害率（H22年度）

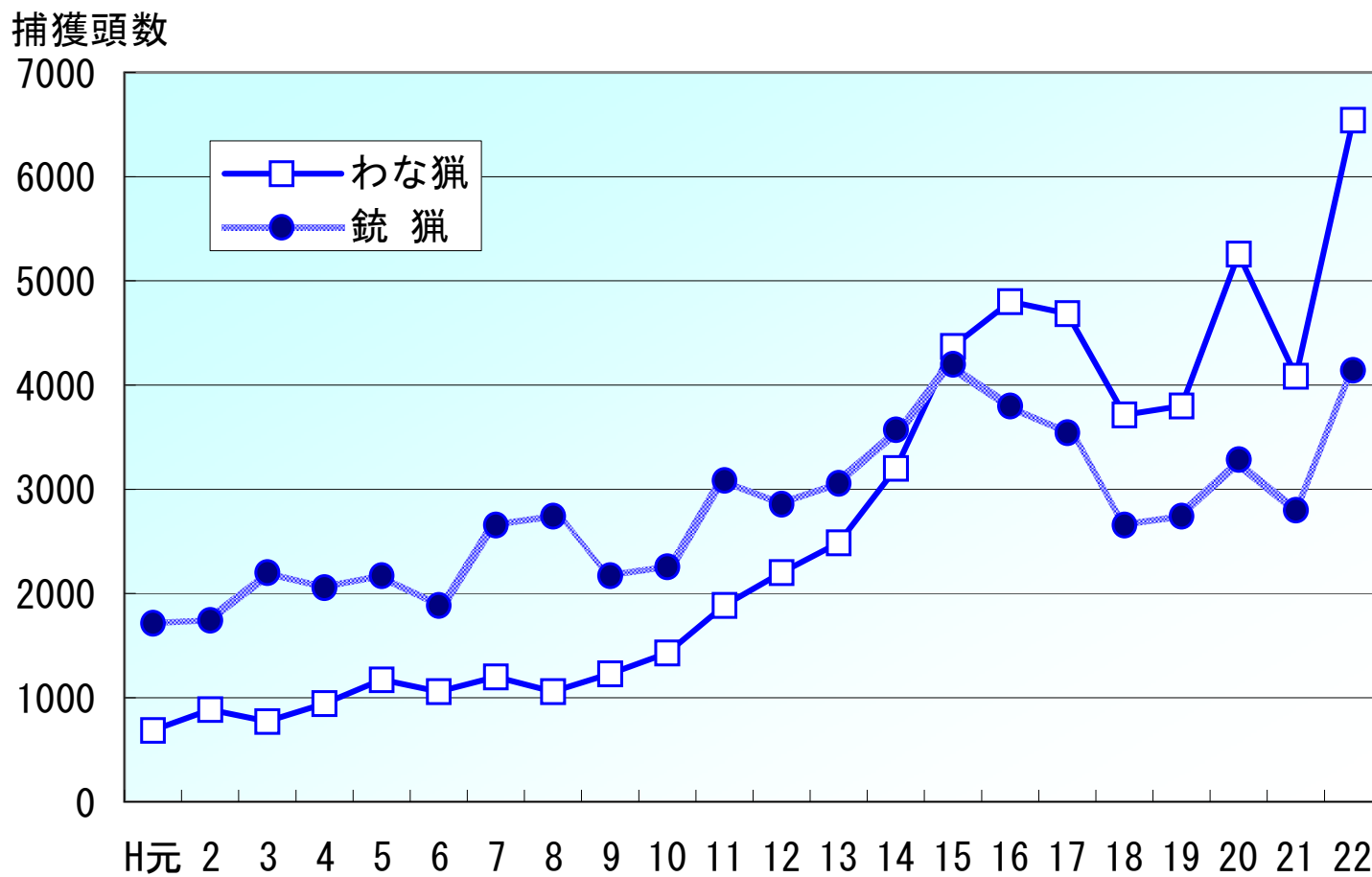
被害率(%)



イノシシによる農作物別被害面積

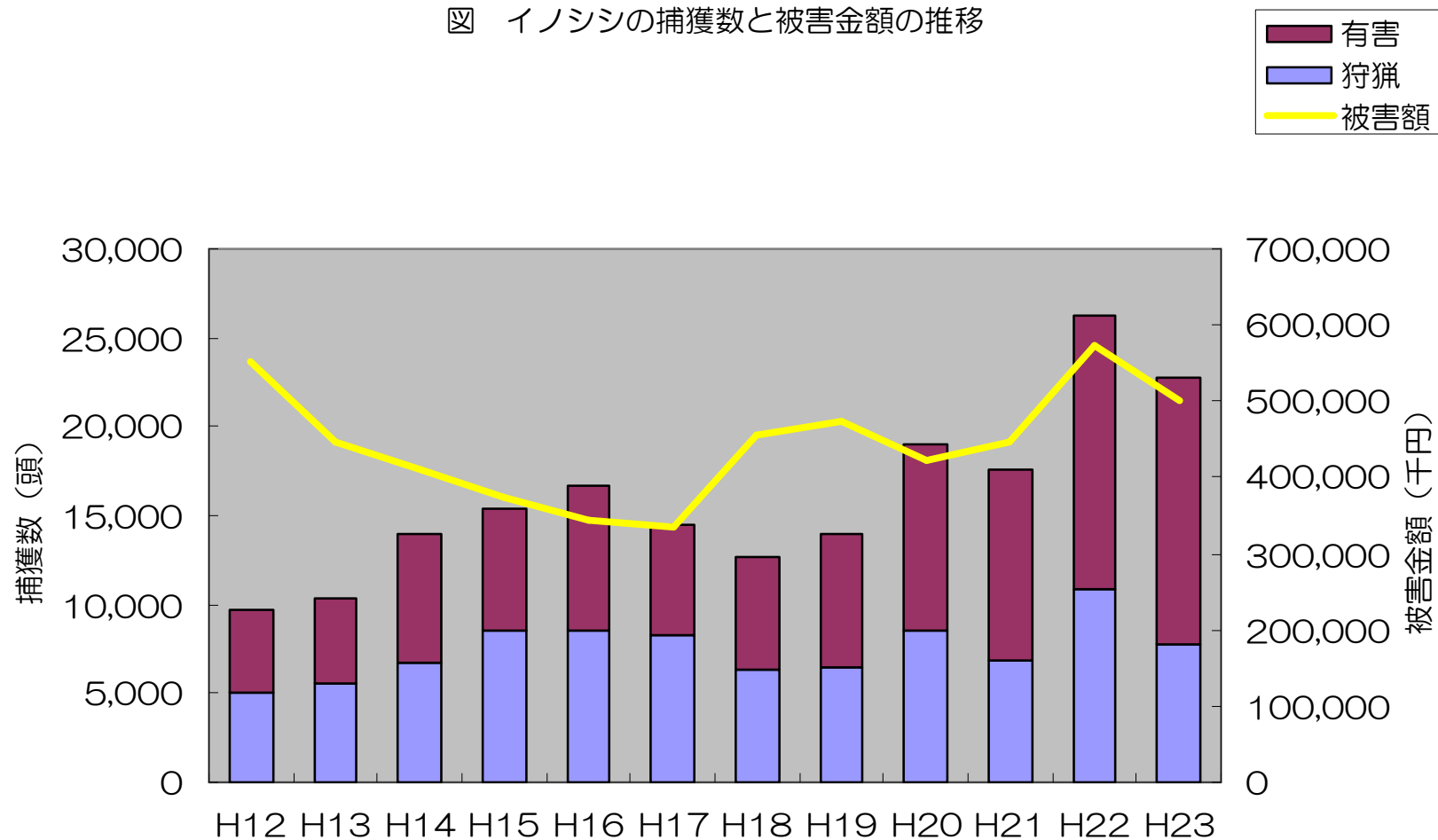


イノシシによる猟法別狩猟捕獲頭数



イノシシによる被害状況と捕獲数

図 イノシシの捕獲数と被害金額の推移



被害総額：5億101万円(H23)

特定計画の概要（イノシシ）

1 計画策定の目的

個体数の安定的維持と被害量の軽減

2 保護管理の目標

- 個体数の調整による人間活動との軋轢の軽減
- 個体数管理の実行

3 数の調整に関する事項

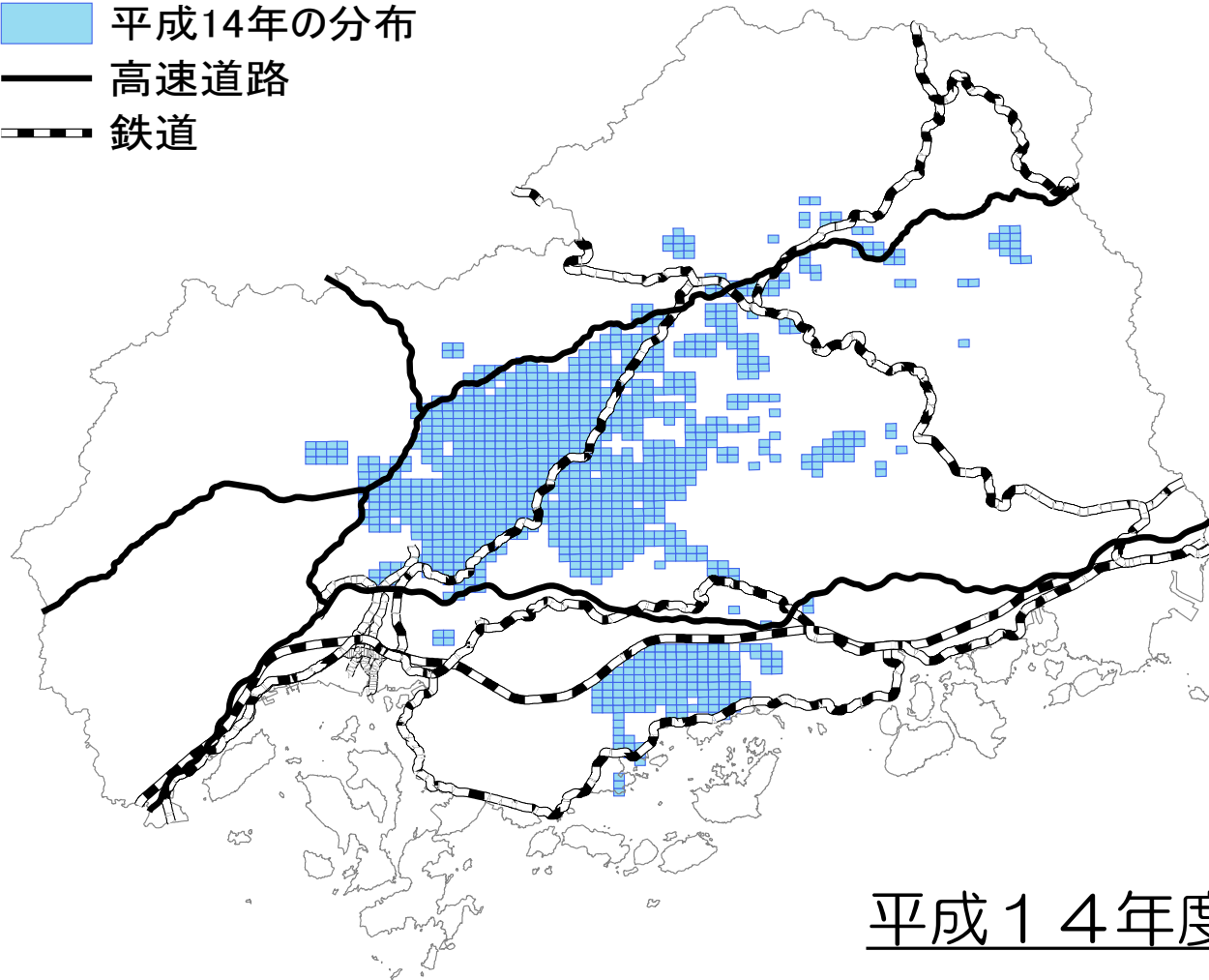
- ① 目標捕獲数（参考値） 20,000頭以上
- ② 生息密度の低減を目的とする捕獲対策の推進
 - ・ 狩猟期間延長：11/15~2/末
- ③ わなによる捕獲の推進
 - ・ くくりわなの輪の直径の規制解除
- ④ 保護管理の担い手である狩猟者の確保と技術向上

4 その他保護管理のために必要な事項

- ① 集落ぐるみでの被害防除対策の推進
- ② モニタリング調査に基づく計画の検証、
計画・施策へ反映させる体制の構築

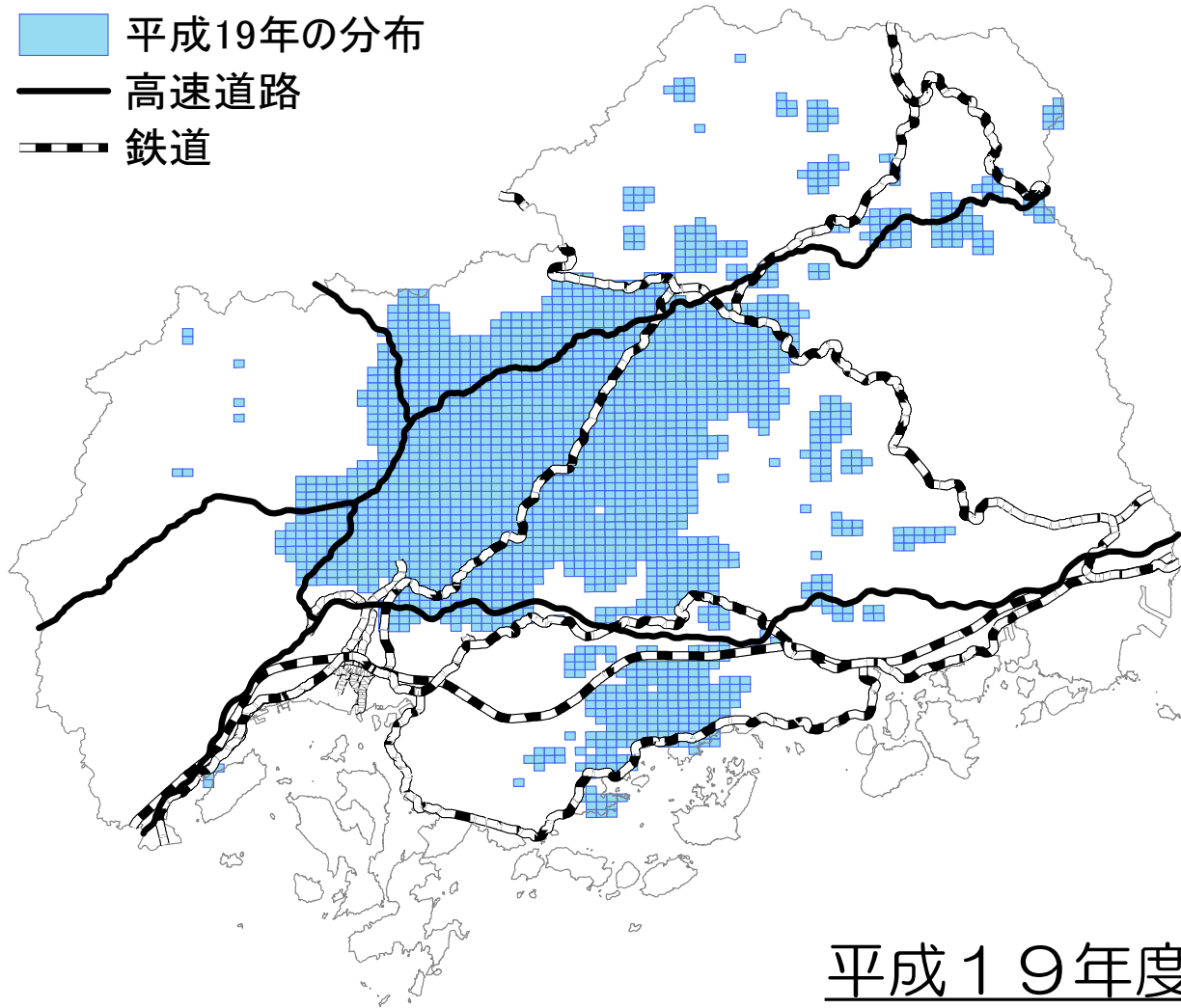
ニホンジカの分布範囲

- 平成14年の分布
- 高速道路
- 鉄道



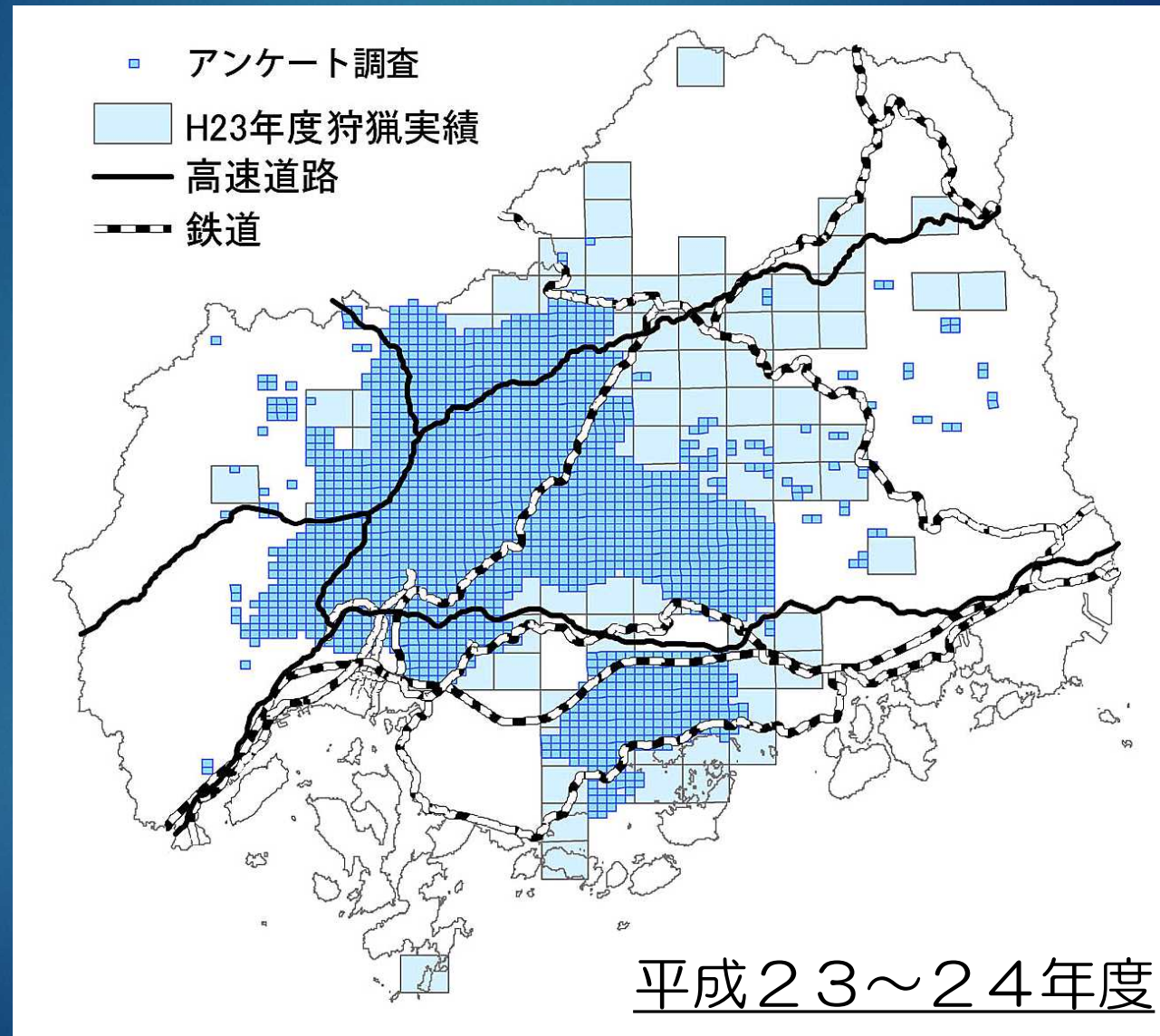
ニホンジカの分布範囲

- 平成19年の分布
- 高速道路
- 鉄道

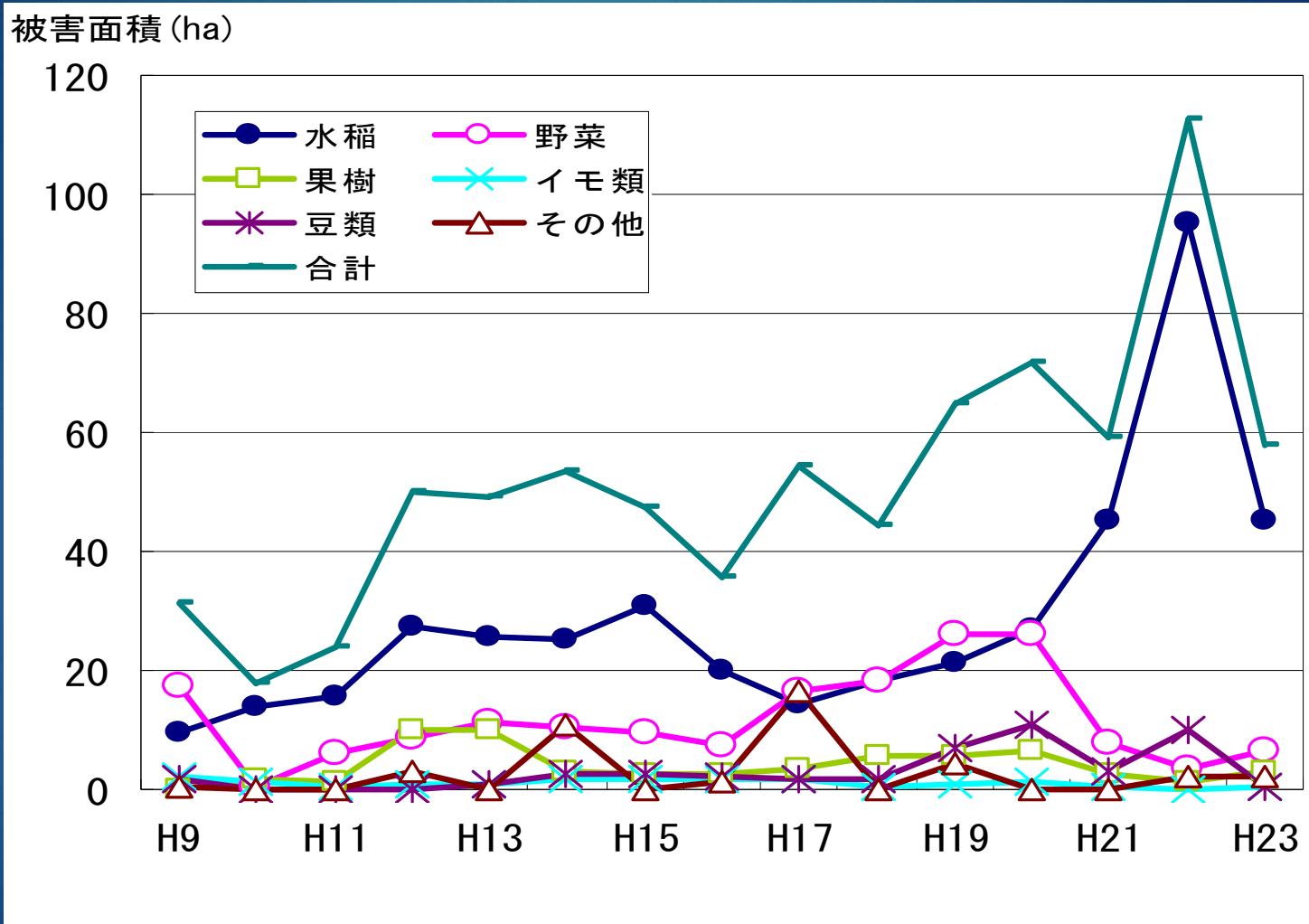


平成19年度

ニホンジカの分布範囲

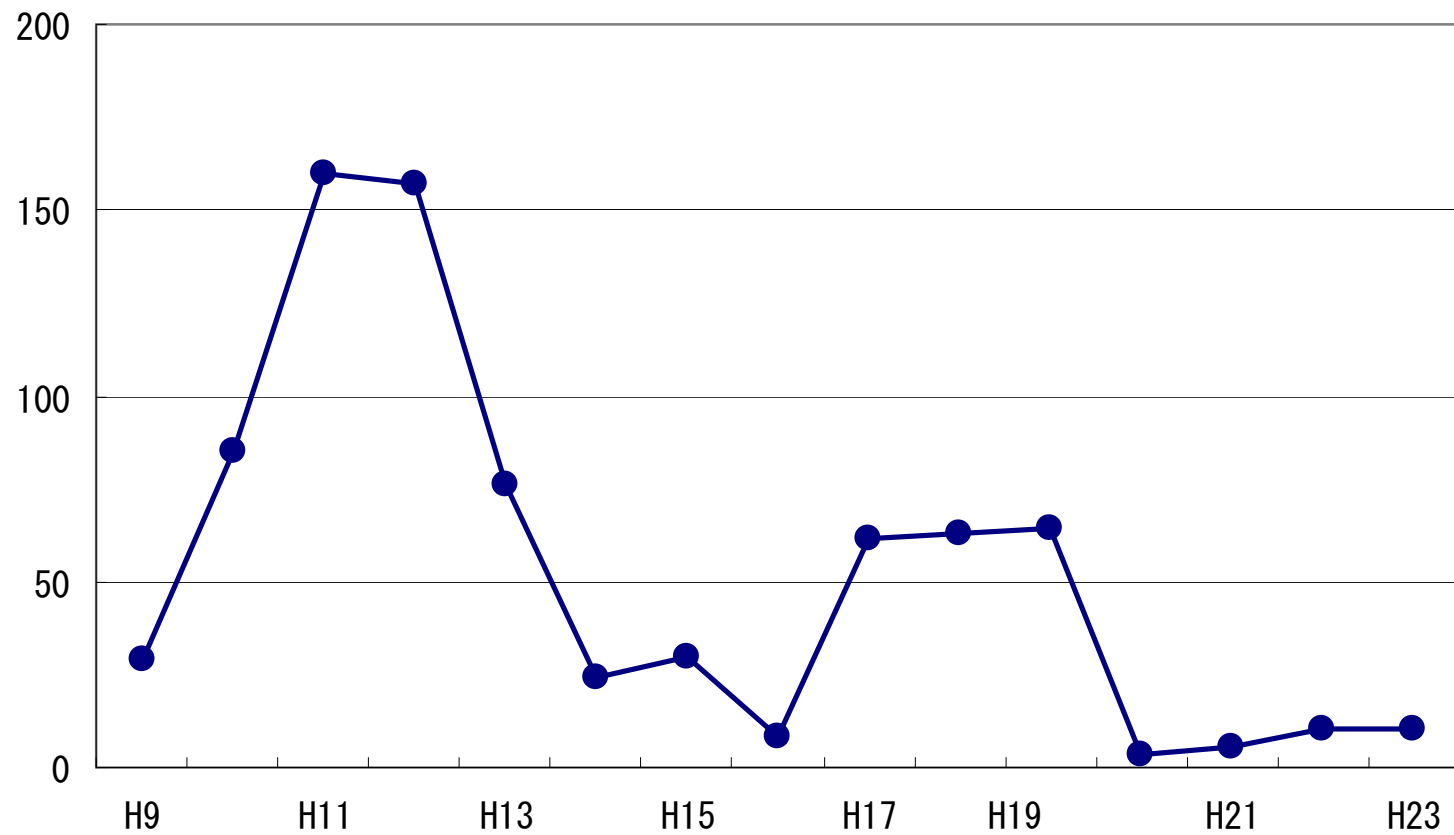


ニホンジカによる農作物別被害面積

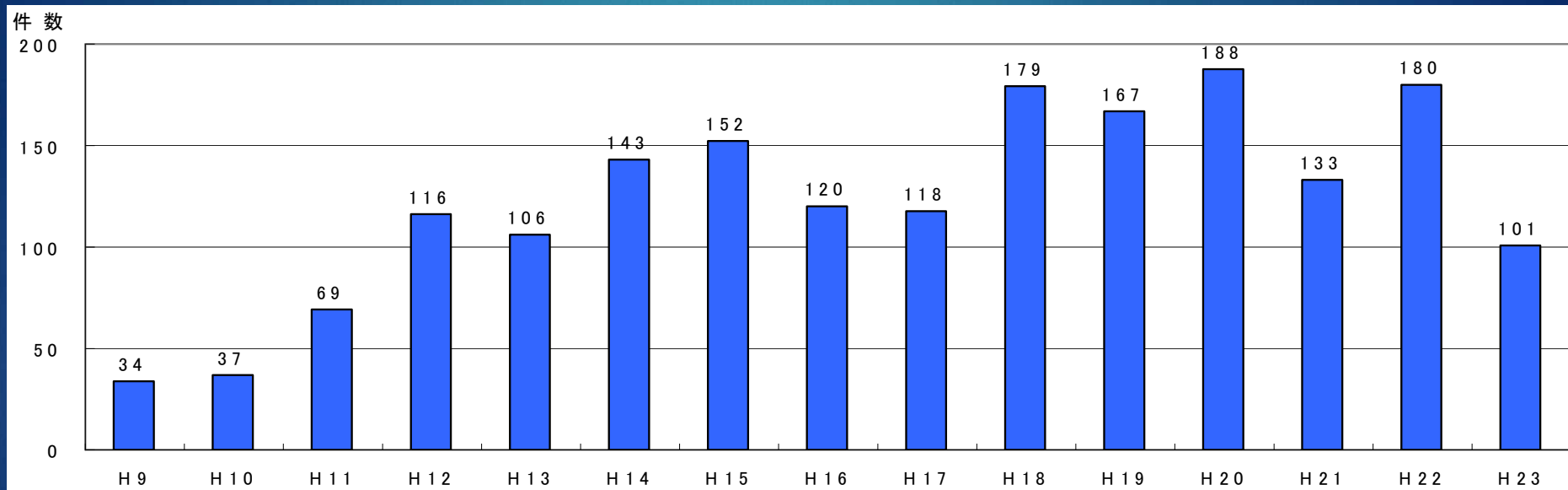


ニホンジカによる林業被害量

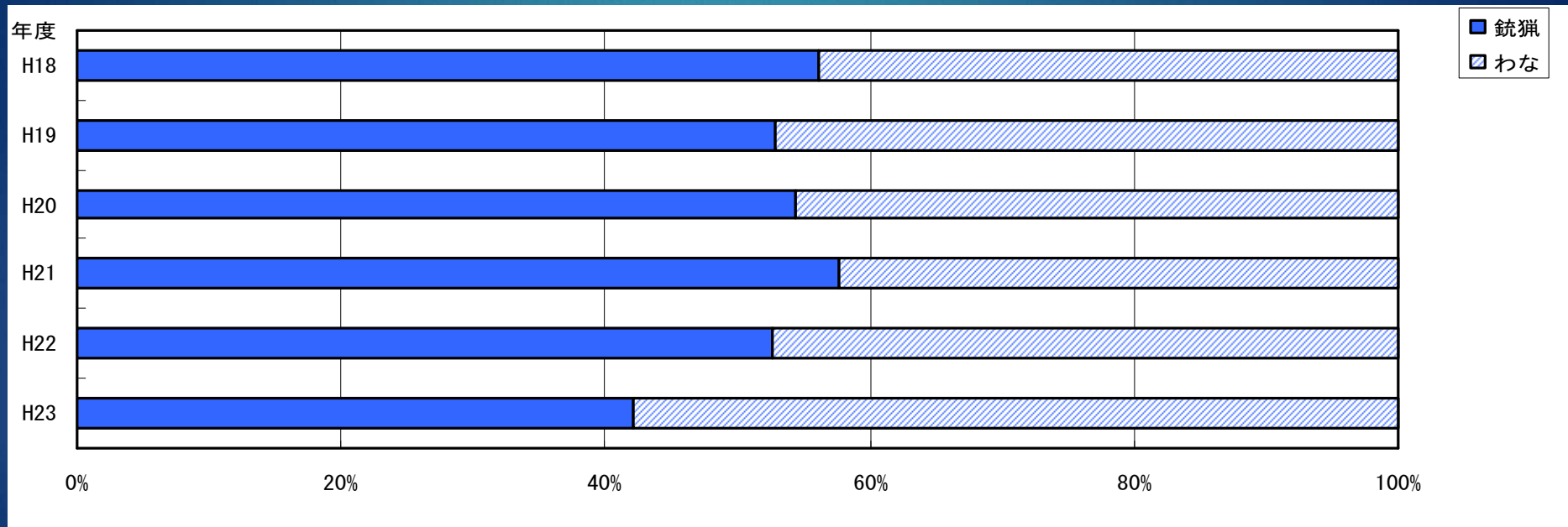
実損面積 (ha)



二ホンヅカによるJR西日本・芸備線 における衝撃事故発生件数

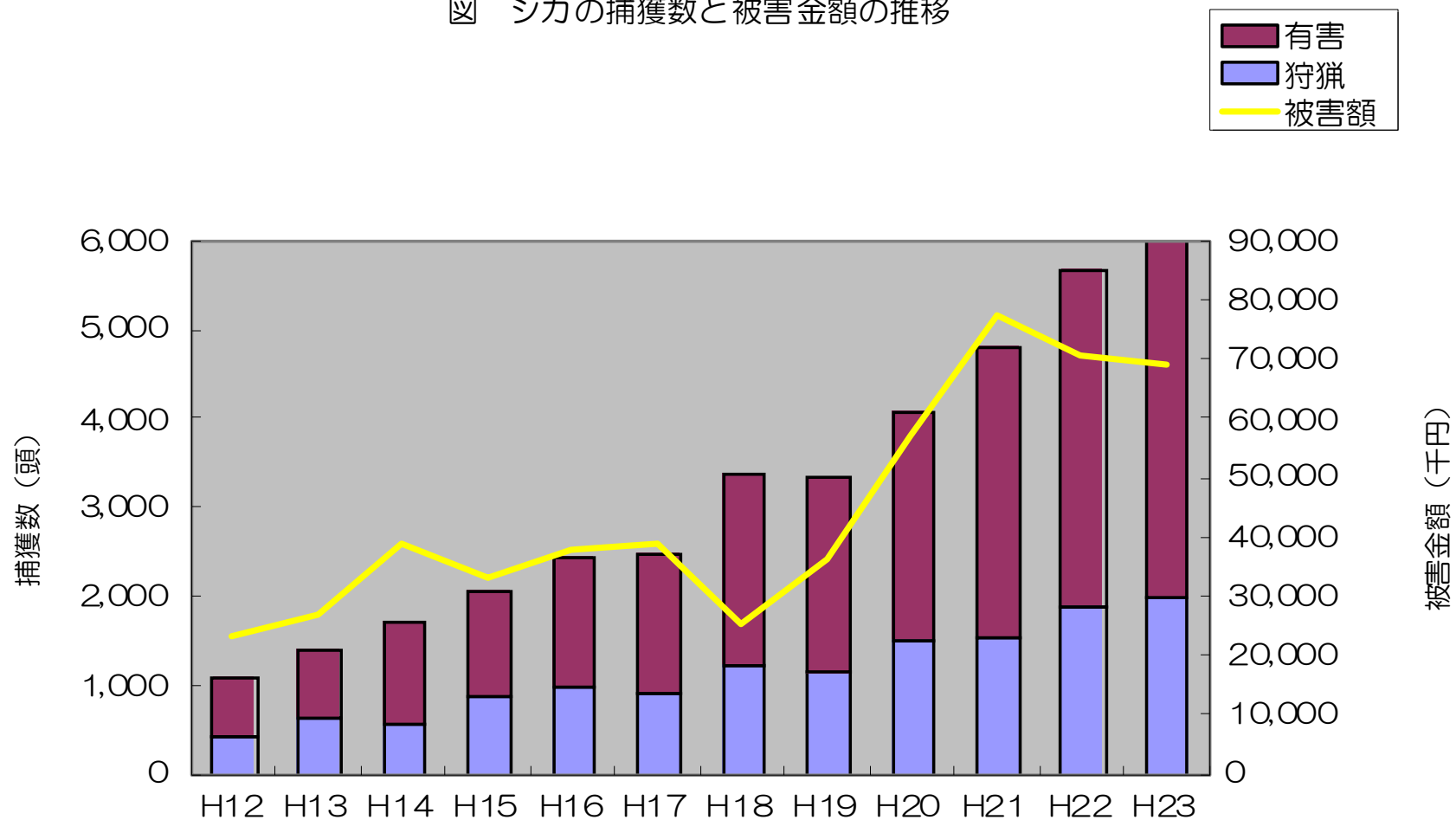


ニホンジカの猟法別狩猟捕獲頭数



ニホンジカによる被害状況と捕獲数

図 シカの捕獲数と被害金額の推移



被害総額：6,917万円(H23)

特定計画の概要（二ホンジカ）

1 計画策定の目的

個体数管理，被害防除対策等の手段を総合的に講じる

2 保護管理の目標

- 農林業被害を社会的な許容範囲内に抑える
- 地域個体群の安定的維持
自然植生への圧力軽減

3 数の調整に関する事項

- ① 捕獲目標数：捕獲数8,000頭以上／年
生息数（H24）21,600～41,200頭の半減（H28年）
- ② 生息密度の低減を目的とする捕獲対策の推進
 - ・ 狩猟期間の延長：11/15～2/末
 - ・ 狩猟での捕獲制限頭数：無制限
- ③ わなによる捕獲の推進
 - ・ くくりわなの輪の直径の規制解除
- ④ 保護管理の担い手である狩猟者の確保と技術向上

4 その他保護管理のために必要な事項

① 被害防除対策

- 集落ぐるみで集落の餌場化の防止，
侵入防止柵の設置等の対策の推進

② モニタリング調査に基づく計画の検証， 計画，施策へ反映させる体制の構築



イノシシ・ニホンジカに 共通する保護管理の課題



□ モニタリング調査に基づく計画策定

- ✓ 個体数調査が5年に1回（シカ）

⇒計画への反映が5年に1回

- ✓ モニタリング結果への科学的評価と特定計画へのフィードバックが不十分
- ✓ 自然植生への影響が不明（シカ）

□ 施策の実行手段の確保

- ✓ 県・市町に，住民等への指導や科学的評価を行う専門的な知識・技術を有する人材が不足
- ✓ 有害鳥獣捕獲中心の対症療法的な施策
- ✓ 個体数増加に対応するための捕獲の必要性
(特にシカ)

□ 県の体制

▶ 環境県民局 自然環境課 野生生物グループ

- ▶ 担当：主に鳥獣保護法，生物多様性等に関すること

▶ 農林水産局 農業技術課 鳥獣害対策担当

- ▶ 担当：主に農業被害対策に関すること

※この他に，水産課（カワウ対策），森林保全課（林業被害対策），等

「野生動物保護管理対策検討委員会」 (平成23年度)

専門家，関係行政機関，関係団体等により構成された「野生動物保護管理対策検討委員会」を設置し，今後の野生動物の保護管理の方向性や体制のあり方について検討を行った。

○メンバー

- 専門家（被害対策，ワイルドライフマネジメント，個体数管理、等）
- 関係団体（農業関係団体，猟友会，等）
- 研究機関（県立大，県研究開発課）
- 行政機関（県自然環境課，農業技術課，水産課，市町等）

○実施回数：4回（平成23年5～10月）

野生動物の保護管理に関する基本的な考え方

ア 基本理念

『人と野生動物と自然環境との調和的共存関係の構築を目指して』

イ 目指す姿（基本目標）

【短期目標】

- 野生動物による農林水産被害，人身・精神被害等の軽減

【中長期目標】

- 野生動物をはじめとする生物資源や自然環境資源の持続的利用
- 生物多様性の保全と多面的機能の維持
- 中山間地域等での豊かな生活の持続
- 人と野生動物の調和的共存

野生動物の保護管理体制の方向性

現状

対症療法的な、「捕獲」中心の鳥獣行政
⇒効果的な被害等軽減にはつながらず

課題

- 科学的根拠に基づく計画策定
- 調査、防除等の専門性の向上
- 防除や捕獲技術の開発・普及
- 行政の実行体制の整備

「ワイルドライフ・マネジメントによる
保護管理体制」の構築

- ①科学的なデータを集積し、それに基づいて
- ②「個体数(群)管理」「被害管理」「生息地管理」を
総合的・計画的・順応的に行う。

ワイルドライフ・マネジメント 推進のための体制整備

○当面の体制整備

モニタリング機能・職員の専門性・連携の強化（赤字は新規）

区分		H24年度（新規）	H25年度以降（拡充）
モニタリング強化	イノシシ	<u>出猟カレンダー</u>	<u>出猟カレンダー等の分析、結果概要作成</u>
	シカ	生息数調査 （※今までは5年に1回の糞粒法）	<u>糞塊密度調査（毎年）</u>
	クマ	<u>堅果類豊凶調査</u>	○調査分析開始 ○調査分析（林技センター）
	科学部会の設置 （計画策定・検証等）	<u>イノシシ、シカの科学部会設置</u> <u>クマの3県合同の科学部会の常設</u>	○イノシシ、シカの科学部会 ○クマの3県合同の科学部会
専門性強化	調査手法・分析等の研修	○各種研修の受講	○各種研修の受講
	<u>クマ対策研修</u>	<u>マニュアル作成、研修開始</u>	○研修の継続
連携強化	関係部署との連携	野生鳥獣被害対策会議（農業技術課） <u>農業技術課との定例ミーティング開始</u>	野生鳥獣被害対策会議 農業技術課との定例ミーティング

農業被害対策の課題と新たな取組み

■ 農業技術課関係

- 集落ぐるみの対策が取れていない
- 集落の工サ場化（工サとなる残渣や放任果樹の放置）
- 鳥獣被害対策の指導者の不在
- 狩猟者の減少，高齢化



- **集落ぐるみの取組**を総合的に推進
 - ① 「環境改善」＝集落の工サ場化を防ぐための取組推進
 - ② 「捕獲」＝農家自らも参加する捕獲体制の整備
 - ③ 「侵入防止」＝効果的な侵入防止柵の設置・管理

鳥獣の保護管理に関する課題と要望

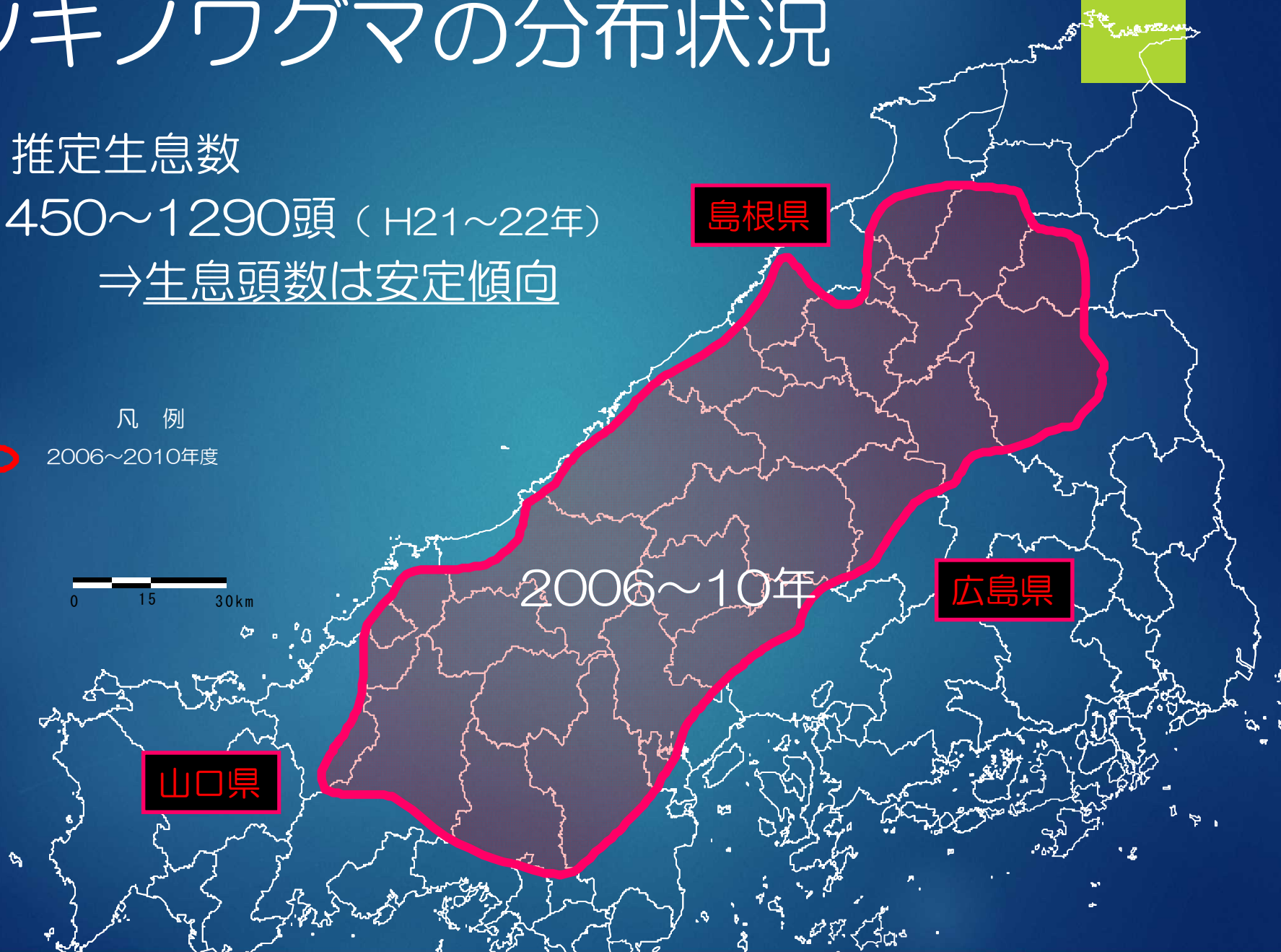
- ▶ モニタリングや捕獲強化（個体数調整捕獲等）に関する財政的な支援
- ▶ 事業やモニタリングを実施する専門的な知識・技術を有する職員の不足に対する支援
- ▶ モニタリング等に関する技術的支援
- ▶ 広域連携に関する国の主導的な役割の期待（ツキノワグマ，カワウ等）

ツキノワグマの分布状況

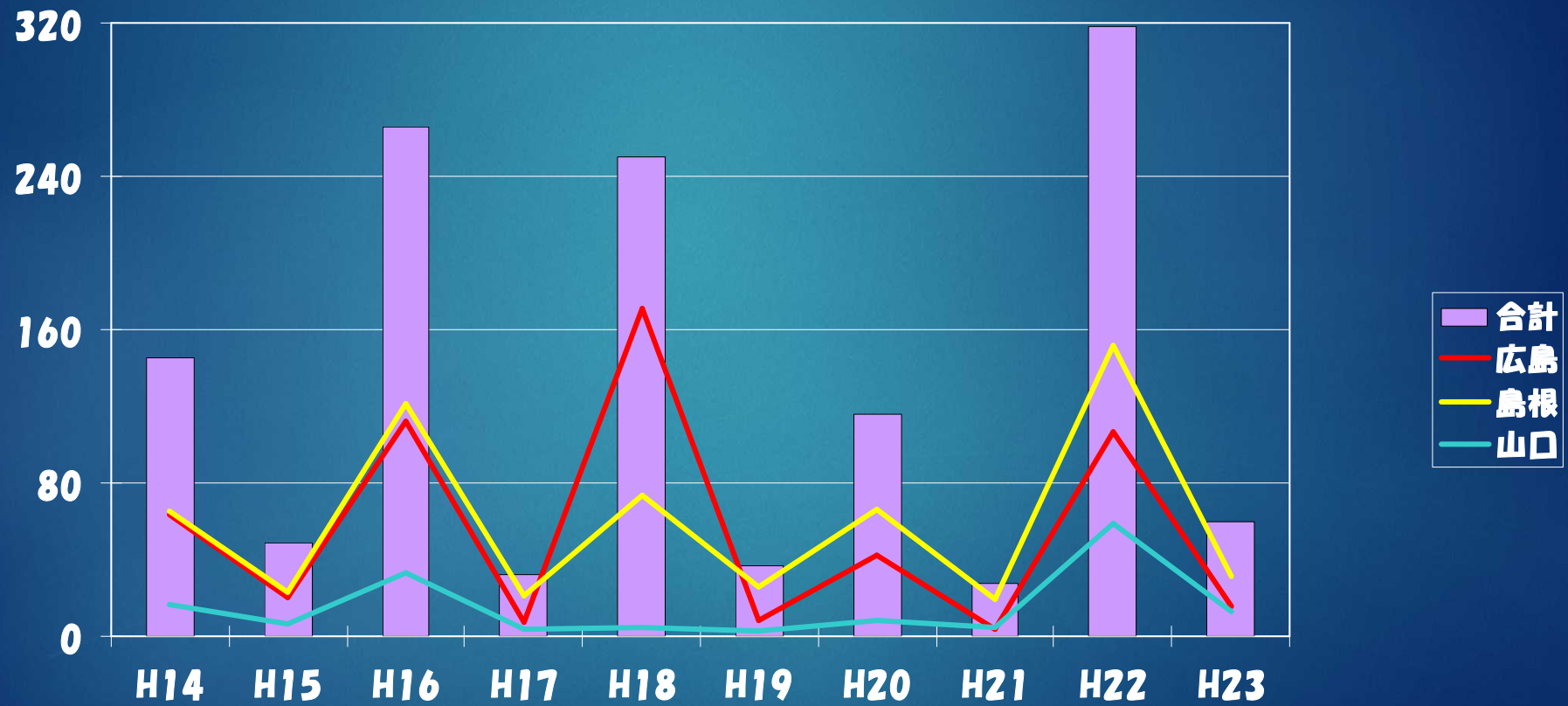
- 推定生息数
450～1290頭（H21～22年）
⇒生息頭数は安定傾向

凡 例
○ 2006～2010年度

0 15 30km



ツキノワグマの捕獲数の推移



西中国地域3県における ツキノワグマ保護管理の取組み

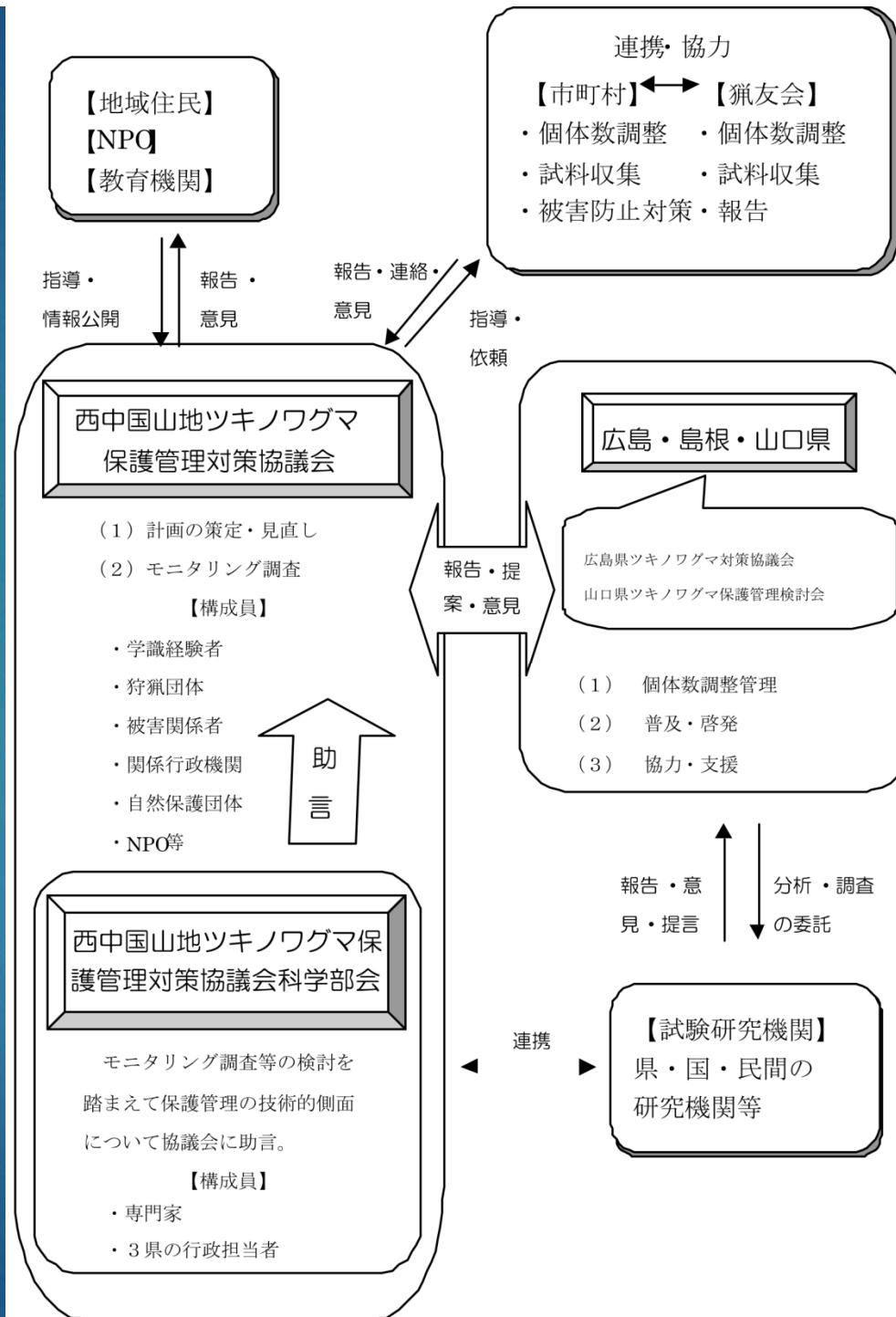
- 環境省レッドデータブック（H3年～）
「絶滅の恐れのある地域個体群」
- 各県のレッドデータブック
 - 広島：絶滅危惧Ⅰ類
 - 島根：絶滅危惧Ⅰ類
 - 山口：絶滅危惧ⅠA類

- 
- 狩猟禁止措置（H6年～）
 - 保護管理計画（任意計画）の策定
 - 広島：H6年（1994年）
 - 島根：H8年（1996年）
 - 山口：H9年（1997年）

ツキノワグマの保護管理対策の状況

- 特定鳥獣保護管理計画の策定（H14年）
広島・島根・山口の3県共同で策定
- 西中国山地ツキノワグマ保護管理対策協議会の設置（H16年度～）
＝3県の相互連携（共同でモニタリング）
→広域保護管理の先駆け

広域保護管理の 取組み



特定鳥獣保護管理計画について

- 計画の目的

- 人身被害の回避
- 農林作物家畜等の被害軽減
- 地域個体群の長期的維持

除去上限目安値：78頭（3県の計）

⇒ ツキノワグマとの共存を目指す

ツキノワグマ保護管理対策の課題

- ▶ 分布域の拡大による個体数調査の技術的手法, 予算的な制約
- ▶ モニタリングの中心となる研究機関がない
- ▶ 東中国個体群側との連携
- ▶ 放獣等に関わる専門的技術を有する職員の不足
- ▶ 放獣場所の確保と地域住民への合意形成